

い わ み さ わ

行 地 屯 集
見 駐 岩 沢 地
編 集 編 集
司 令 業 務 室 広 報

月 間 目 標

火 災 予 防

昭和58年度

十二施群訓練検閲終る



群は、九月十六日から四夜五日にわたり、上富良野演習場及び滝川演習場において訓練検閲を受閲。秋冷とはいえ、好天に恵まれ、雄峰十勝岳も噴煙たなびく雄姿を見せていた。

検閲は、方面隊の防勢作戦における全般支援に任ずる施設群の行動を課目として、遅滞陣地及び最終阻止陣地と築城支援の場をとらえ、方面隊、師団、連隊の指揮所施設、一五五ミリ自走榴弾砲掩砲所、一〇六無反動砲掩砲所、複合

*表 彰

受賞おめでとう

ございます



1等陸曹
加藤和美

十月十日体育の日に、本部中隊加藤和美一曹は、岩見沢銃剣道連

盟理事として永年の功績が認められ、市体育協会から表彰された。加藤一曹は、現在六段教士で三十一一年六月入隊、銃剣道との出逢いはそれ以来現在まで続いている。特に三十八、三十九年には全日本選手権に出場した程の実力の持主で、全道大会は言うに及ばず、地方の大会にも飛んで行く程である。昨年岩見沢銃剣道連盟二十周年記念にも表彰されており、重ねての表彰に喜びもひとしおの様子である。

障害等各種の施設作業を実施した。特に、上富良野演習場においては、予想をしていたものの岩石の出現により、構築位置の変更やコンプレッサーの使用等悪戦苦闘したが、不眠不休、全隊員一丸となり、日頃練成した訓練の成果を遺憾なく発揮して、所命の任務を見事完遂した。

講評も昨年より一段と向上、良好に近いものであり、群は早くも来年の検閲目指して闘志をかき立てている。

また今回の訓練検閲は、警備保全等業務諸隊の全面的な協力を得て、演習出場率百%となつたが、その蔭には、一日おきの警衛勤務や連続特別勤務等、長期にわたる業務諸隊の絶大なる支援の賜であり、駐屯地挙げての成果であつたと思う。

非常事態宣言

群は、十月一日に車両事故防止「非常事態宣言」式を実施した。このところ行楽シーズン最盛期を迎え、隊員による交通事故、違反を抑制しようとして、群全隊員を営庭に集めて、車両事故非常事態宣言を行い、安全運転五則を唱和し、安全運転を誓い合うとともに、各中隊は、さつそく具現徹底するため、次の事を実施した。

- 一 私有車、官用車全車両への非常事態宣言ステッカーの貼布
- 二 交通安全映画による視覚教育
- 三 交通事故に起因した民事、行政教育

新隊舎完成



九月二十七日、新隊舎完成により、各施設中隊（一階三三五、二階三三六、三階三三七）は移転を開始した。当日移転に先立ち一階廊下入口において、駐屯地司令、業務隊長、幕僚、各中隊長等出席のもと、テープカットが行われた。

この後一行は、淡黄色を基調とした新隊舎（着工以来十四箇月連続渡り廊下を含め総工費三億八千万円）の舎内を巡視した。

給食審査受検



駐屯地は、五十八年度方面総監の命による給食審査を受検、審査は給食業務の細部にわたつて行われ、その真摯な給食業務は「良好である」と認められた。

現場視察 8月25日

新戦力千名巣立つ

三、四月入隊新隊員二十二名へ教官 柿木二尉の後期教育終了式が九月二十二日駐屯地教場において、群長、幕僚、各中隊長列席のもと厳粛に行われた。

群長から学術優秀者が表彰された後、「この三箇月間に培った技術、体力、精神力を基礎として、また同期の絆を大切にし、それぞれの配置部隊の戦力となるようにと訓示があり、全員が群内配置となった。

本教育生を省り見ると、体力優秀な隊員が顕著であつた事である。

勝とうぜ十二施群

第十二施設群の諸君、いよいよ来る十月二十日(木)、団持続走競技会が幌別駐屯地において実施される。

わが十二施群は、団射撃競技会優勝の気運に乘じ、さらに次なる目標は団持続走競技会必勝である。明言、「走れ走れ十二施群」をスローガンに各隊とも走り込んで来たところである。残された日々は少いが昨年の苦汁は二度と味わつてはならない。勝負は秒差である。他人をあてにせず、最後の最後まで厳しい練習に励み、同僚を良きライバルとして燃焼し尽そう。

己に勝て！ 体力気力の限界に挑め！ 闘志をむき出せ！ 己の力と闘志を最大限に発揮せよ！ 十二施群の優勝は君のその一歩にかかっている。走れ走れ十二施群、そして勝利を出せ十二施群の底力を、そして美酒を。

57年度 団持続走競技会 総合優勝(1施群)と比較

区分 種目	タイム差 (秒)	走者 分隊(個)	1人あたり (秒)	配点
一般走	-64	85	0.76	0.4
分隊機動	-290	6個		0.3
階級別	-975	36	27.08	0.1

この表から一般走のみで、85人が共に6.17秒上回つたとすれば優勝したことになる。

特に柴田、大久保、佐藤二士の三名は、群持続走記録会においても常に上位入賞を果たし、先輩達は早くから〇〇二士は何処の中隊へ行くのかと感心事であつた。この三名に劣らず続く隊員も多勢ひしめき、群は来る団持続走競技会優勝に向け、素晴らしい新戦力を加えた事となつた。

—新戦力頑張れ—

- 学術優秀者 二士 小野田一則
- 群長内務賞 高橋 一郎
- 教育隊長賞 手嶋 隆幸
- 同 同 山上 竜一
- 同 同 近藤 和久



8月1日 市民とともに交通安全を訴える。



* 定 年
永年の勤務
ご苦労さまでした

真松准尉は、福島県出身、二十七年十二月金沢駐屯地独立第五三二施設大隊に入隊、翌二十八年二月同大隊は岩見沢に移駐、現在に至る。この間、装輪車整備手、装輪車整備曹、部品陸曹、整備小隊陸曹を歴任。就職先、北海道ハイウェイサービス株

真松正雄准尉、停年十月五日、自衛隊生活三十二年、現住所は岩見沢市駒園二丁目



調理実習 10月7日



駐屯地運動会 9月2日



階級別リレー

アンカー 中隊長も力走